

魔胎奇伝マームVI

翻弄・光明・王女の悲恋



Shalone Soft

成人向け
FOR ADULT

警告！

本サークル作品は表紙画像以外のネット上への無断アップ・無断公開を一切禁じております。発見次第、無断公開行為をした本人及び支援者（無断公開ファイルの場所やハッシュを紹介したブログ・掲示板の書き込みに関しましても一切の例外なく支援とみなします）サイトのサーバー管理者並びにこれらの行為を広告により支援した企業にむけまして、以下の損害賠償額を請求します。

ダウンロード数がわかるものに関しましては会場頒布価格（ページ単位の場合は頒布価格÷頁数）×ダウンロード数、数がわからない場合は当方で前例より損害の金額を算定し、こちらに業務妨害損害賠償金（概算一作品あたり50万円）を加算した金額。

アップした本人・サイト管理者だけでなく、特定できる場合はダウンロードした本人にも会場頒布価格+業務妨害損害賠償金（一作品あたり10万円）…をお支払いいただきます。

弁護士より助言を受け、以上の警告文を掲載させていただきました。

不快に思われた方には、誠に申し訳ありません。不正行為撲滅に御理解いただけますよう、よろしくお願いいたします。



大魔王バーンとの死闘から数年…

ポップ・メルルと旅をしていたマアムの元に
皇女レオナが行方不明になったとの報が入る。



探索に向かうマアム・メルル・マリ
ンしかし、その前に立ちはだかったのは
何と、淫魔ブラックモアに取り憑かれ、
正気を失ったポップだった。

ブラックモアは、ポップの強大な魔力を糧に
触手を自在に操り彼女達を捕らえ蹂躪する。

悲惨なレイプ劇の前にポップの自我は墮ち
その身体は完全にブラックモアに乗っ取られ
穴の奥へと消えていった…。

(魔胎奇伝マアム)



そのころ、レオナは女淫魔の
洗脳を受けていた。
ヤンティスと呼ばれるその淫魔は
人間界の王女であるレオナの身体を操り
日の当たる世界を手中に収めるとい
う野望を語る…。

…



ブラックモアに取り憑かれたポップ・行方不明のレオナ
二人を救出する為マアムはメルル・エイミと共に魔穴に潜入する。

だが、ポップの姿をした淫魔ブラックモアに
動揺を隠せないメルルは、淫魔の罠に囚われてしまう。

そこでメルルに告げられる非情な現実。
それは、先の教導で下等淫魔の子種をその子宮に宿されている事、
そして、もはや愛する人の子供を作れないという事…

叶わぬ恋に絶望したメルルの心は快楽に墮ち、
罠の奥深く消えていく…





精液を受けるたびに成長していく腹の魔界のため
クロコダインとチウの必死の叫びもむなしく、怪しげな行為
にふけるマアム。

一方、ヒュンケルも女淫魔に扱られるエイミ・メルルに
組み敷かれていた。エイミのヒュンケルに対する感情を
快楽に変えて、貪欲にそれをむさぼるヤンデイス。

絶頂とともにエイミの心が閉ちようとしたその瞬間、
淫魔ブラックモアが現れ、何かがレオナをさらったと
ヤンデイスに伝える。急ぎレオナを追うヤンデイス。

ヒュンケルとエイミも、奮つけられた想いを抑え、
マアム達の元に向かう。

しかし、そこで彼らが見たものは、クロコダインとチウの
精をむさぼり、くり返す絶頂に悶えながら魔界を産み落とす
彼女の姿だった…！

魔穴の外れ、ようやくレオナを見つけだしたヤンデイス。
レオナを抱きかかえる男の姿…。
それはかつて彼女が愛した勇者・ダイだった…。

(魔胎奇伝マアムIV)

マアムの産み落とした魔界に誘われ、
魔穴の奥へと飛ばされたマアム達は、
ダイの姿を見る。だがそれは、異世界にいるダイが
レオナを助けたい一心で放った思念体だった。

ヤンデイスの盗計に再び嵌ってしまう一行。

拘束されたヒュンケルは、ダイの思念体の目の前で、
成すすべなく、操られたレ●ナの処女腔を奪われる。

一方、気を失ったマアムは魔界の手に落ちていた。

魔界は、マアムの子宮を目指し、歩を進める
愛する母の胎内へ、母の全てを支配するために…

胎から子宮へ…狂気の精霊潮が終わりをづけ、
魔界の輪がさらに怪しく光を増すのであった…。

(魔胎奇伝マアムV)





みなさまこんにちは！
半期に一度のAbaloneSoft『魔胎奇伝マアム』シリーズも、
今回で6作目・第一部完となります。

なんだよ、まだ続くのかよ…とガンガリしないで下さい。
續くみたいですよ。ええ。

気付けば、魔胎奇伝シリーズを描き始めて
もう3年になるんですねえの(笑) (c・o) 回
時の流れは早いものです。
遅いのは妹次郎の執筆速度だけです(「エ」)
少なくとも半年一作のペースだけは守って行こうと思ってるので、
シリーズ完結まで、もうしばらくお付き合いお願いします。

ええと、近況ですが
前回『魔胎奇伝マアムV』の前書きで紹介しました三毛猫の
「はるみちゃん」が今シーズンから、原稿部屋の現場主任になりました。

毎日まいにち、誰よりも早く仕事場に来て、ほぼ一日中ネコタワーの上から
「ちゃんと原稿描きたまえ」的な目で見下ろしてくれています。

たまにタワーから降りてきては、直接指導をしてくれます。
「ペン先そろそろ換えたまえ」と言わんばかりにGペンに嗜り付いて見事捻じ曲げてくれたり
「まだ下書きなのかね、どれ手伝おうか」と原稿用紙の上に寝転んでくれたり…

そのたびに「はるみ主任ご指導ありがとうございますもふもふ」と
腹に顔をうずめる毎日…
おかげで、妹次郎からの白い目にも慣れる事が出来ました。
そして、いつも以上に原稿に遅れが生じ…(「c・o」)

今回も無事にこの本が出せたならば、
全て妹次郎と印刷屋さんのおかげです♡
そして、読んで下さっている皆様にも「人」感謝♪

今回でとりあえずの一区切り、楽しんで頂けたら嬉しいです。

2011.12月某日 閑亭妹次郎



ママ、イワのせ
止まらないうわ
成長した海魔が
子宮に入っただもの
を産か



ヒッ

ツ



僕の事大好きに
なるよついに
願いたく
なくやなをきつに

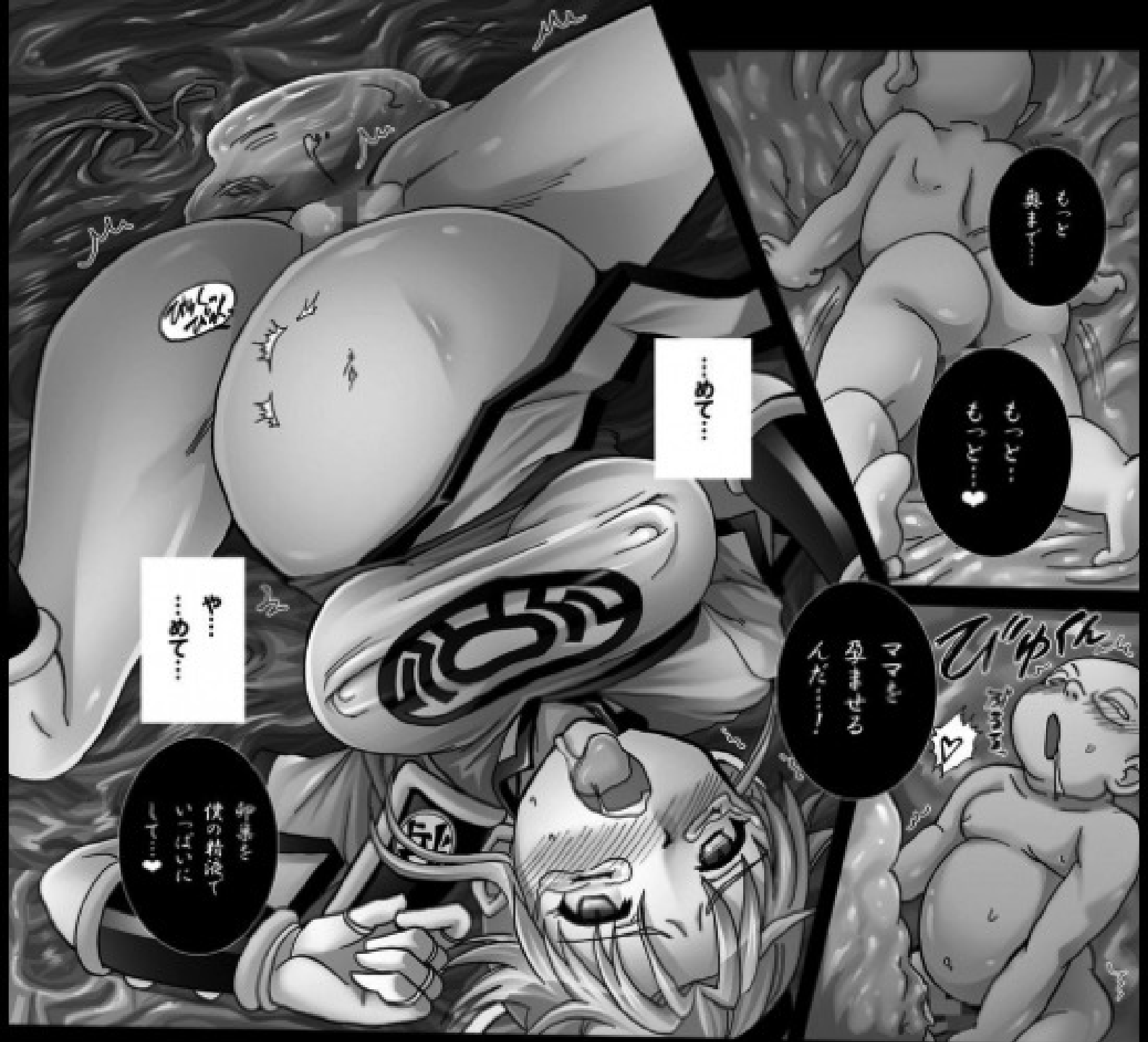
もじりきりて
お持ちよく
してあげる



これ、何の
穴なのか
わかるう



ねえ
ヒッ
ツ



御事を、
僕の精液で
いっしょに
……

や……
……

……

ママ……
孕ませろ
んだ……

……
……

……
……



まだだ
ママ
まだいっばい
出るからわい

……
……

……



「すごいのです、
子宮が腫れ、
パンパンです」

「……」



「絶対にママを
ボクだけの
モノにするから……」



「大事を仲間の
悪い人にたふぶりと
種付けしたって……
跡残のない男しゃの」



「……」

「ほれ」

「むわ」



「此れが昔者よ
娘がお玉の仲間と
淫らに交わる様を……」

「おや」

「まだ……
濡れておらぬの……
今んと強い思念して」





秋もまたの
鳴るたびに
ささめかす



この
成れの事には
悔みの心

この肉の味が
愛しく
たまらぬ



こんな
子供のまぶたを
ささめかす

んんん

カク



この
おなかの
奥に



んんん

んんん



ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ

あ〜っ♡

ばかを...

ばかを!

んんっ♡

あ〜っ♡

はっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

ヒクッ

「この子、
感心するのは、
「おっ♡」
「んんっ♡」
「あ〜っ♡」
何故熱いのかしら...」

おっ♡





お腹…重い…
そうだった…
今、この中に
あの子が…

胎児の時ですか
狂うような
性衝動だったのに…
私…どうなって…



マアム！
しっかりしろ
マアム！！

ん…
ヒュン…ケル
……う



あの子…
今は子宮の中で
安心して眠って
いるのかしら…

身体…
うずきはあるけれど
我慢できるくらい
意識も…ハッキリ
しているわ…

多分…大丈夫
今なら
動けるわ



大丈夫か
マアム！

いけない！
また不安に
とらわれていい
時じゃない！



…あ
どうしたの
マアム

何…や
この感覚…や
淫魔の気配が
手に取るように
分かる…

どうして…や
何故こんな事が
出来るように…
私…いつたい…や



女淫魔は
どうしたの？

そんな…
まさか！

それが…

様子が
おかしいんだ…
どうもレオナの意識が
戻っているような…

え？
？



下腹部
……あれは
子宮？

何かに
抑えつけられて
弱々しく
縮こまっている
ような……

そうか……
この子……

この子と同じ
気配なんだ……



子宮？

そうね
間違っ
ない……

そうか……
女淫魔が女しか
操れないのは
女にしかない器官に
取り憑くから
なのか……！

くっ……しかし
場所が分かっても
レオナの胎内では
攻撃する手立てが
……



今の私なら
分かる……！
レオナに取り憑いた
女淫魔の所在が……

マホイミ……は
どうかしら？

なり！

確かにあの呪文は
生体組織を破壊する
恐ろしいものだけれど……
元々は強力すぎる
ホイミなの

子宮の中には
強力な自浄能力が
あるから
うまく加減すれば
レオナに影響なく
淫魔だけを倒せる
かもしれないわ



しかし！
どうやって
レオナの女性器に
マホイミを...

おい！
マアム！！

ダイの体の機能
を壊せばレオナの
体内に直接送り込める
かもしれない！

ダイの身体を
使う気か？
ムリだ！
あれは思念体
触れる事は
出来ない！

見たでしよう？
ダイはレオナを
抱えていたわ
...今だって...

ダイの強い想いが
きつと奇跡を
起こしているのよー



あ...
あ...

ありがとう
ダイ...っ！
ありがとう...っ！！



お願いダイ
私達に
力を貸して...



さわ...
れ...る！
触れるわ！



ママムが
ダイに...
消けこんで
いく...?

なっ

え...?

ダイと私が
つながって...
そこから何かか
離れてくる...?



!?

びく

んっ

え...

なにに? 何これ...
下半身の...
あるはずのない所から
すごい快感が
押しよがってくる...

これは何...
もしやダイが
感じているものが
伝わってきて
いるの...?

熱いと冷たくの両に
くぐぐぐと
飲み込まれていく
ような...
これが男性器の
快感...!



せち

せち

はっ

一生懸命
奥へと誘って……
たっぷりのお愛液で
潤して……
その体温で肉ヒタで
けなげに奉仕して
徹しく求めて……っ

あ♡

……

レオナの
想いが
痛いくらい
伝わって
くる……っ……

はあああ

待ってて
絶対に……
絶対に助けるわ
レオナ……!!

いくわよ



マホイミと
気を練り上げて
精気に
流し込むわ



……
びびびび

……っ
頭の中が……
真っ白に
はじける……っ!!



出しゃよ!!

射精
タイク
!!



あーレオナの
子宮の入り口が
精液の動きに
反応して...

熱い...
魔力を帯びた
精液が尿道を
昇つてくる...

ふーちやううー

ダイのペニスに
吸い付いて
きた...



ああああ

びりびり

あ

ア
ニ
ム
ス
シ
ム

ビクビク
ビクビク



大丈夫か
マアム?

私は...
大丈夫...
レオナは...?

マアム!



お...お
おとおお

!!
淫靡の
声!!

苦しんでいる
レオナ...
助けてあげよう
だ...

レオナは...
助けてあげよう
だ...



ブラックモア!

回復が出来ぬ...
味しかわらわはまん
死にどうない...

誰か助けてくれ
ブラックモア!
ブラックモアは
...

ブラック
モア!



いね...
彼がいる気配は
しないわ...

終わりよ
ヤンデイス...



仲間を
呼ぶ気が!

マアム!
ダイー
下を...ろ!

ブラックモア!



皆が「おめせいで
怖い目にあつた
なんですよ」

「本家の方の
ダイ君は生きてるよ
信じてあげて...
私のことを信じて
くれないんか...
そなたを信じてあげて...」

あんなら



「あんな...
なま...」

「あんな...
なま...」

レオナ...



「ダイ君め...
声...」

「ダイの出来体は...
始めて...
...」

「信がないで
レオナ...」



私...
わたし

レオナ



「ダイ君は勇者だから
皆に優しく、私は
特別な存在じゃない
のかもしれない...
...だから...」

「私を抱いてくれる
淫夢のダイ君を
信じたかった
...信めない...
...」

「本物のダイ君は
私を信じて...
...」



「上がった
彼の声か
...」

「ずいぶん
...」

「今はまだ別の場所
の爆発でやられた
身体が相手が強くて
動けないけれど...」

「目が覚めたら
必ず一番最初の
君のところに帰る
...約束するよ...」



レオナは
お姫様だから
世継ぎの心配も
されるだろうし

ただ、それが
いいならおまは
俺にも
わからないんだ！

若くてきれいだから
いつか俺よりずっと
いい男が目の前で
現れるかもしれない

そんな時は
俺のことを忘れて
君自身の幸せだけを
考えて欲しいんだ



俺は、レオナが
大好きだから
レオナが幸せに笑ってる
この地上を守る為
身を投げ出した

その地上で
レオナがひとり
苦しんでいる姿を
見るのは本当に
辛かったよ

俺はレオナに
何もしてあげられ
ないんだって
痛いほど思い知った
……だから……

レオナが誰のものに
なったらレオナも
その人の顔を見て
いるなら……
俺は嬉しい



ダイ君
本当に
ありがとう……

だけど俺はきっと
ずっとダイ君の事
が大好きで、
君を待てるだけの
……いいよね？

ダイ君が私を愛して
くれているなら
泣く必要なんかないわ
俺様だっていいわ



ダイ君！
身体が……

うん……もう
力が尽きた
みたいだ……

また……
しばらくの間
眠りに
つかなぎな



だやうと！
もうこのまじ
約束じゃ



私、いくらでも
遊ぶわよ
ダイ君

次にあつた時は
何をしようかな、とか
何が美味しいとか
作つてあげようかな、
とか考えてるだけで

今はどうも
幸せな気分だ
なれるもの！



届ってきたら
すぐに
そのおっぱいを
しゃべりね！

ふふっ、私が
おっぱいちゃんに
なる前に
届つてないと
大変なことになるわ！

がむ



ママム...

ダイ！



あーは、
あはは、
いりあしオナ
に因つたね

安心したよ
じやあ俺は
...いくね...



何だかある！
自分だけ助けられたお
それに言葉を倒す
覚悟ももたえよきたか
今はゆっくり眠って



だから早く...
早く帰って
くるのよ
ダイ！



To Be Continued...

魔胎奇伝マムVI

発行日:2011.12.31

発行: AbaloneSoft
<http://abalone-soft.sakura.ne.jp/>

印刷: サングループ様

警告!

本サークル作品は著作権法以外のネット上への無断アップ・無断公開を一切禁じております。著作権、無断公開行為をした本人及び主催者(無断公開ファイルの転送やハッシュを結合したブログ・掲示板の書き込み)に課せられても一切の損害をく受償とみなします。サイトのサーバー管理運営がこれらの行為を応答により支障した企業にもけまして、以下の損害賠償金を請求します。

ダウンロード数がわかるものに課しましては全額損害賠償(ページ単価の場合は請求価格×頁数)×ダウンロード数。数がわからない場合は直方で判例より損害の金額を算出し、これらに著作権者損害賠償金(複製一件品あたり10万円)を算出した金額。

アップした本人・サイト・主催者だけでなく、特定できる場合はダウンロードした本人にも全額損害賠償・著作権者損害賠償金(一件品あたり10万円)一生を支払いいただきます。

弁護士より勧告を受け、以上の警告文を掲載させていたどきました。

不快に思われる方には、随に申し返事が付せん。不正行為は速に摘発いたしますよう、よろしくお祈りいたします。



魔胎奇伝マアムVI

翻弄・光明・王女の悲恋

